

第1学年国語科学習指導案

教育実習生 A12-0034 佐藤あかり
 (東京学芸大学4年)
 指導教諭 淺田孝紀先生

日時：平成27年10月5日(月) 第1時
 学校：東京学芸大学高等学校 1年D組(42名)

1. 本時のねらい
 筆者の主張する日本人の感性を理解し、自分の東西比較文化論を書くことができる。

2. 本時の展開

時間	○学習活動 T 主な発問 ・ 予想される生徒の反応	●指導上の留意点 □評価
4分	○あいさつ、点呼 ○前回の授業の振り返りをする。	●対比を用いた二項対立の文章であることを確認する。 ●日本人と西洋人の「水」に対する考え方の違いと、「かたちなきもの」に対する考え方の違いを確認する。 ●日本人は「形なきものをおそれない心」を持つことを確認する。
10分	○形式設備○を音読する。 ○「恵おとし」が、日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛けと言えらる理由を考える。 T 「恵おとし」が、日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛けと言えらるのはなぜか。 ・日本人は自然に流れる水を美しいと感じているが、流れる水を直接見るのでなく、間接的に感じることによって心で味わうことができる。「恵おとし」は断続する音によって、間接的に流れてやまないものを感じさせる仕掛けであり、日本人の水を鑑賞するありかたとして究極のものだと言えるから。 ○形なきものをおそれない心とは何かを考える。 T 形なきものとは何でしょうか。 ・形が定まらないもの。 ・間接的に心で味わうことのできるもの。	●この文は「恵おとし」の文章でなく、日本人の感性を明らかにする文章であることを確認する。 ●生徒から出たものを、授業者が3つにグループ分けする。

T心で味わうことのできるものには何があるか。
 (本当に形がないもの)
 ・水 ・空気 ・あうんの呼吸
 (一部で表しているもの)
 ・俳句 ・本歌取り
 (まったく別のもの)
 ・枯山水
 ○日本人の感性についてまとめる。

●「形なきもの」を心で感じとろうとする日本人の感性を、西洋と対比しながらまとめる。

○「東西比較文化論」を書く活動の趣旨を理解する。

●メモ用ワークシートと、消書用原稿用紙を配布する。

○文献やインターネットを用いて、題材を決め、題材の特徴を明らかにする。(メモ)
 ○西と東の題材を比較して、分かったり考えたりしたことを書く。(メモ)

●東と西、どちらの文化について考えを主張するか決めさせる。

○「水の東西」の構成(1 恵おとしの説明 2 噴水の説明 3 日本に噴水が少ない理由。日本人の感性 4 まとめ)を参考に、比較文化論を書く。

○「水の東西」の構成(1 恵おとしの説明 2 噴水の説明 3 日本に噴水が少ない理由。日本人の感性 4 まとめ)を参考に、比較文化論を書く。

●東と西の2つの題材から、どちらかの文化について自分の主張を述べることができている。(原稿用紙、ワークシート)

(板書) ●ホワイトボード

水の東西 山崎正和

日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛けと言えらるのはなぜか。

形なきものとは？

・形が定まらないもの。
 ・間接的に心で味わうことのできるもの

心で味わうことのできるもの
 (本当に形がないもの)
 ・水 空気 ・あうんの呼吸
 (一部で表しているもの)
 ・俳句 ・本歌取り
 (まったく別のもの)
 ・枯山水